

## 令和6年度第3回京都市はぐくみ推進審議会 摘録

日 時 令和7年2月5日（水） 13：30～15：30

場 所 からすま京都ホテル 3階 瑞雲の間

出席者 安保千秋委員、石塚かおる委員、和泉景子委員、稲川昌実委員  
戌亥慎吾委員、伊部恭子委員、井本真悠子委員、上田七菜委員  
内海日出子委員、大東貢生委員、大野一誠委員、岡美智子委員  
川北典子委員、志澤美保委員、杉本五十洋委員、竹久輝頭委員  
長岡謡子委員、中野浩子委員、中村信子委員、西島千晴委員  
藤本明美委員、山下維久子委員、山下和美委員  
(23名)

欠席者 石垣一也委員、北川憲一委員、竹内香織委員、小谷裕実委員  
藤野敦子委員、升光泰雄委員、松田義和委員  
(7名)

### 次第

- 1 開会
- 2 議題  
「京都市はぐくみプラン<2025-2029>（京都市子ども・若者総合計画）の策  
定について
- 3 閉会

(司会：齋藤 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課長)

司会	令和6年度第3回「京都市はぐくみ推進審議会」を開催する。 本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知らせいただくため、「京都市市民参加推進条例」第7条第1項の規定に基づき、公開することとしている。 開会に当たり、子ども若者はぐくみ局長の福井より挨拶を申し上げます。
福井局長	(開会挨拶)
司会	本日お集まりいただいた委員を紹介させていただきます。  (出席委員の紹介)
司会	「京都市はぐくみ推進審議会条例」第6条第3項において、当審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員30名中、23名の方に御出席いただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。 ここからの議事進行については、安保会長にお願いします。
安保会長	それでは、議事に入る。「京都市はぐくみプランの策定について」事務局から報告をお願いします。
事務局	資料1～3を用いて説明
安保会長	委員からいただいた事前の質問に対して、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料4を用いて説明 ○少人数学級、学校統合について ○量の見込みについて（実績数誤り） ○市民目線の目標について
安保会長	ただ今の事務局からの説明について、各委員から御意見をいただきたい。
稲川委員	やさしい版はわかりやすい。大人でもこちらであればすぐに理解できると思う。学校へのプランの周知は考えているか。また、保育園だ

事務局	<p>と難しいかもしれないが児童館や学童クラブなどでプラン目標を周知するといった取組ができると良いと思う。</p> <p>小学校等へは保護者向けアプリ「すぐーる」など、インターネットやSNSを活用し周知する予定である。</p> <p>また、プランは作って終わりではなく、子ども・若者たちに伝えていくことが大切と考えており、その手法を検討してまいる。</p>
安保会長	<p>パブリックコメントでは動画を作成されていたが、プラン本体はいかがか。動画であれば見てみようという気になりやすく、それが導入として、さらに詳しく知りたいと思うきっかけにもなる。</p>
事務局	<p>動画については検討してゆく。</p>
和泉委員	<p>やさしい版について、私もわかりやすく良いと思った。しかし、4ページ目の相談窓口について、全てのこどもが携帯電話を保有しているわけではない。例えば窓口の地図を掲載するなど、誰でもアクセスしやすいようにした方が、本当に悩みを抱く子どもにとって駆け込みやすい場所というイメージがついて良いと考える。</p>
事務局	<p>御意見を踏まえ、掲載する情報について、検討させていただく。</p>
中野委員	<p>今回のパブリックコメントで子どもと一緒に動画を見たが、子どもも興味を持ってくれていたので、やさしい版の動画は是非作成してほしい。子どもに対し、京都市では子どものためにこどもまんなかで取り組んでいるということを伝える機会が増えると良い。</p> <p>今回、色々な意見が子どもたちから出たと思うが、結果の公表の際に「私が言った意見は載っている？」と気になって興味が繋がっていくことが良いと思った。すぐーるなどで子どもたちに伝わるように広がっていくと望ましい。</p> <p>また、今回の意見は子ども達がそれぞれに、こういうふうになってほしいと思って書いた意見であり、やはりそれは子どもにとって身近な問題であるから、何らかの形でたびたび目にする機会があれば、やってくれていて嬉しいという実感が持ちやすい。今回意見を受けた項目はできる限り優先して、作って終わりではなく、ポスターや市民しんぶんなどで項目ごとに取り上げて経過を伝えてほしい。</p>
事務局	<p>子どもに対しどう伝えるかは、今後もしっかり取り組む必要性を痛</p>

<p>安保会長</p>	<p>感している。本会議では速報として意見の内容を報告させていただいたが、フィードバックの方法は意見反映部会でもお諮りし、検討していく。</p> <p>是非工夫して、意見を言ってよかったと子どもたちが思っただけのような、自信を持てるようなフィードバックにさせていただきたい。やさしい版で取り上げられた意見を見ると、遊具や給食、自習場所の話は大人の視点では出てこなかったと思う。子どもに意見を聞くことの有益さやすばらしさを実感できて良かった。</p>
<p>内海委員</p>	<p>パブリックコメントは子どもからの意見が多かったとのことで、素晴らしい取組であり、子どもたちもきっと喜んでこれからの期待が膨らむと思うが、一方で、残念ながら大人の意見が少なかったのではないか。大人に対しこの取組をどう広げていくのかという課題がある。子どもが身近にいない方に対し、京都市全体として子どもを育てていくのだという周知をどうしていくのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>パブリックコメントについては、多くの子どもから意見をいただいた一方で、大人への周知が十分だったかという点については、顧みる必要があると考えている。大人への啓発の観点でいうと、具体的な取組として、例えば、京都府と京都市、府内の団体が参加している子育て環境日本一会議では、子育てを社会として取り組んでいくという意識醸成に関する事業もしているため、そういった取組と連携するなど、あらゆる手法を検討してまいりたい。</p>
<p>藤本委員</p>	<p>表紙について、明るい雰囲気が良いと思うが、国のはじめの100か月の育ちビジョンで妊娠前からの切れ目ない支援が挙げられていることを踏まえて、妊婦のイラストを入れてはどうか。切れ目のない支援を妊婦の時点から受けられるかが課題であるので、視覚から、このプランが妊娠中から関係するものだと関心を寄せていただけると良い。</p> <p>25ページは前述の妊娠期からの切れ目のない支援に係る部分で、区役所・支所について記載されているが、出産後の孤立傾向を防ぐためにも地域には頼れるつどいの広場や保育所があるということを妊娠期から知っていただきたい。区役所のプレママプレパパ教室がそれらと連携し、交流会などを開催して「出産後にまた来てね」という流れを作り、産後早く利用していただくことでまさに切れ目のない支援が実現すると感じる。妊娠期の方にとって出産後関わる施設の情報が</p>

事務局	<p>少ないため、区役所・支所がそれらの地域資源と連携していくことが入れば切れ目のない支援に一步近づけると思う。</p> <p>43ページに記載のあるつどいの広場の質の向上について、具体的な取組が冊子中に掲載されているのか。掲載がない場合、プランの策定後に行う取組が決まっていたら教えてほしい。質の向上は必須だが、現状、各施設単独で実施されている感が否めない。ネットワーク化を図り、全体で質の向上を目指すことが切れ目のない支援に繋がると考える。具体的な取組の予定がなければ積極的に考えていただきたい。</p> <p>表紙については作業スケジュールを踏まえて検討させていただく。</p> <p>切れ目ない支援におけるつどいの広場についての記載は、お示しいただいた次頁の26ページでさせていただいている。</p> <p>つどいの広場の質の向上については、今年度から地域支援事業を必須としたばかりであり、年々レベルを上げていく必要性があるほか、施設間や区役所との連携も重要と考えており、具体的な取組としてお示しするものではないが、それらの観点から質の向上を目指してまいる。</p>
戌亥委員	<p>増加傾向にある不登校について、学校ではGIGAスクールや28、29ページにあるスクールカウンセラー等の取組が行われている。それらを活用して頑張っている子どもたちもいるが、まだまだ学校に通わなければいけない状況であり、それが子どもにとってプレッシャーとなって負のスパイラルに陥っている。またそれらの取組を保護者が理解できておらず、必要な方に対し情報が行き届いていない。先ほど御意見のあった動画を含め、時代にあわせいろいろな方法、媒体で冊子と連動し周知してほしい。</p>
事務局	<p>不登校等個別の課題の周知については主に各所管で行われるが、子若局としても広報面で連携できる限り進めてまいりたい。</p>
事務局 (教育委員会事務局)	<p>教育委員会としても保護者の方への情報発信は重要と考えており、プランと合わせた周知についても今後検討してまいりたい。また子どもへのフィードバックについても重きを置いており、引き続き子若局との連携を検討してまいる。</p>
安保会長	<p>京都市の不登校の状況はいかがか。</p>

事務局 (教育委員会事務局)	<p>国と同様、増加傾向で 3,000 人を超えており、特に伸び率が大きいのは小学校低学年である。今までも「中一ギャップ」として小学校から中学校に進学するタイミングが注目されていたが、幼稚園保育園から小学校への接続についてもしっかりと連携する必要があることから「架け橋プログラム」を実施している。</p> <p>また全国に先駆けて学びの多様化学校という不登校を経験された子どもに特化した公立中学校を 2 校設置しているほか、ふれあいの杜といった学校に在籍しながら別の場所で学べる環境を作っている。また、不登校傾向にある子どものためのサポートルーム（校内での教室以外の居場所づくり）にも力を入れて取り組んでいる。</p>
山下 (和) 委員	<p>不登校については子どもや家庭の事情が個々によって全く異なり、それらに応じた対応が求められるから人的支援を引き続きお願いしたい。</p> <p>また、ヤングケアラーの問題については、令和 3 年度の調査以降、京都市でも取組がされているが、42 ページの世帯訪問支援モデルの提供数はこれまでのモデル実施等を踏まえ適切なのか伺いたい。</p>
事務局 (子ども家庭支援課)	<p>ヤングケアラーの世帯訪問支援モデルは現在中京区と右京をモデル地区として各 1 世帯、計 2 世帯が利用されている。利用によって実際に当該世帯の子どもの発達に良い影響が出たと支援者からも御意見をいただいております、これを全市展開していきたいと考えている。</p> <p>量の見込みについては、令和 3 年度の実態調査や同 5・6 年度のモデル実施の結果を踏まえて計算しているが、来年度は国から実態把握のためのアンケート調査が通知されており、これも活用しながら必要な方に必要な支援を届けてまいりたい。</p>
山下 (維) 委員	<p>趣旨が違うかもしれないが、きれいな言葉が並べられ過ぎていると感じる。待機児童 0 とうたわれているが、現実としてポイント制により、兄弟で別々の園に入園せざるを得ないほか、希望の園に入園できない、職員が復帰をしたくても希望どおり入園できないといった問題がある。確かに子どもを真ん中にしていきたいという思いは理解できるが、地域、社会ぐるみとしてみたときに、保育施設の環境やそこで働く者の問題を子ども若者はぐくみ局のどこが連携して取り組んでいくのかが見えてこない。</p>
事務局 (幼保総合支援室)	<p>兄弟児についてはポイント制で 15 点と高く設定してはいるものの、地域偏在もあり希望に沿わない場合もあることは御認識のとおり</p>

<p>安保会長</p>	<p>である。引き続き状況と照らしつつ、取り組んでまいりたい。</p> <p>施設の状況について、例えば27ページには職員配置や処遇改善等の記載があり、施設と保護者それぞれの希望に沿えるよう連携して取り組んでまいりたい。</p> <p>京都市だけの力ではやはり限界があるので、市民や団体と協力しながら子どもたちのために頑張ることがこのはぐくみプランの要だと思う。市だけでは足りないところを、私たち市民がどうしていくか一緒に考えていきたい。</p>
<p>大東委員</p>	<p>資料1の4ページ目、青少年活動センターを全区に設置してほしいという意見に対し、アウトリーチ事業を示すのは食い違っている気がする。設置しない理由を示すべきではないか。過去に実施されたアンケートでは、青少年活動センターを利用されていない方に対し、その理由を伺ったところ、遠いからという理由が大半だったと記憶している。それらに対し、アウトリーチ事業が十分に対応できるのか検討していただきたい。また、実際に今後全区では設置しないのか。個人的には廃校等の利用も考えられると思う。プランへの掲載希望ではなく、今後の京都市の見解を伺いたい。</p> <p>先ほど、藤本委員からつどいの広場間の連携について御意見があったが、施設間の連携は重要である。事業をしている大人たちがどう繋がるのかという部分がプランの中で弱いように思う。14ページに地域資源との連携が記載されているが、具体的にどのようなことをするのか。具体的な事業は、施策一覧としてホームページに掲載することだが、まだ公表されていないかと思う。その事業の進捗管理についても具体的な方法を知りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>青少年活動センターのアウトリーチ事業については、より分かりやすい掲載を検討する。アウトリーチ事業では青少年活動センターのみ皆さんの協力にもいただき、例えば自治会館等にて週1回、月2回等から始めているところ。一からハード整備することはハードルが高く、まずは既存の施設を活用し、地域ニーズを踏まえ、各センターと協力して、頻度を増やす等、今後展開してまいりたい。</p> <p>地域連携における具体的な取組については、各事業所管部署で検討してまいる。施設を超えた連携について、例えば青少年活動センターと児童館では既に連携した取組を行っているところもあり、まだ連携が取れていない施設間においては、所管部署でも連携して取り組むことになるかと考えている。具体的な期限を設定するものではなく、地</p>

	<p>域の実情を踏まえながら取り組んでまいりたい。</p> <p>具体的な事業については、予算議会前ということもありお示しできないところがある。施策一覧については600程の施策を網羅するものであり、完成次第提供させていただく。</p> <p>進捗管理については、現プランと同様、毎年度、全施策について照会を行い、とりまとめて情報提供させていただく。ただし、全ての施策となると分量も多くなってしまうため、重要事項に絞ったうえで、報告し議論いただくことを考えている。</p>
大東委員	<p>15ページについて大人側も連携されていることがわかるようなイラストにしてほしい。</p>
事務局	<p>この図については、青少年部会、子どもの意見反映・居場所づくり部会の皆様に確認させていただき作成しているものである。対応については、事務局と会長で相談させていただく。</p>
安保会長	<p>本日は今年度最後の審議会として、皆様からプランを踏まえた今後の取組や感想について御発言いただきたい。</p>
石塚委員	<p>児童養護施設で虐待を受けた子どもをみており、数でいうと少数になるが、状況は非常に深刻である。国では虐待初期の段階から地域で支えて深刻化を防ぐという大きな方向性がある。京都市では児童家庭支援センターやこども家庭センターの役割を各区はぐくみ室が担っており、はぐくみ室と各施設、民生委員等地域の協力が非常に重要となってくるので、はぐくみ室と児童相談所の職員を増員し、連携をとれるようにしていただきたい。</p>
和泉委員	<p>プランを拝見し、色々な方の思いが冊子になっているとしみじみ感じている。意見を聞いていると、各委員が感じている現状と市の把握している状況にやはり少しギャップがあると感じる。例えば学校で外国籍の子どもを支援されている方に話を聞くと、支援する時間に限りがあるため、支援のない時間では、話が分からず授業中に寝てしまったり、他の子どもとトラブルを起こしてしまったりといった問題があるようだ。この場のように会議の中で話をさせていただくことも大事だが、実際に現地で働いている方の話も聞いていけば、このプランも現実味を帯びて、とても良いものになっていくと感じる。</p>
稲川委員	<p>やさしい版を未来の子ども達にきちんと教えていけるよう、動画も</p>

	<p>含めてしっかり考えてほしい。</p>
戊亥委員	<p>繁忙な親が増加していて、つきあいが狭くなっている。家庭での教育においてもそれぞれの親に任せきり、親も忙しくて子どもに目を向けられないといった環境になっていて、親に対してしっかりと情報を伝えることが大事だと考えているのでその点よろしくお願ひしたい。</p>
伊部委員	<p>委員の御意見を聞いて改めて連携の大切さを考えていた。</p> <p>やさしい版の相談窓口に「秘密を守ります」という文言を入れると良い。また障害のある子どものために、先ほど動画版の御意見もあったが点字版もあった方が良いのではないか。本冊22ページに児童虐待対策・社会的養育の推進の記載があるが、社会的養護に関する施設を退所した子ども・若者の支援における、国が示す自立支援事業や居場所拠点事業がここに含まれているのか気になった。</p>
井本委員	<p>やさしい版をいかに広めるかが大切だと感じた。可能であればプラン本冊にやさしい版があることを書いてはどうか。個人的に青少年活動センターの全区設置については、実際に利用する機会があるなかで場所の偏りを感じるの、難しいかもしれないが是非検討してほしい。</p>
上田委員	<p>KYO-DENTという京都市内の大学生向けのアプリにプランに係るパブリックコメントの記事が掲載されていた。幅広い世代に情報を届けることを考えると、大学生世代に対してはアプリでの配信が有効だと感じた。</p>
内海委員	<p>保育園こども園は地域に根差した施設だと思っている。年齢的にも妊婦から子育て家庭まで、卒園されてから成人後も来られることもある。そのような場で支援がしっかりとできるよう、声を聞いていきたいし、プランが京都市に根差すようお手伝いしていきたい。できて終わりではなく、どんどん良いものにしていって5年後に繋がるようお願ひしたい。</p>
大東委員	<p>プランは作っただけではなく推進していかなければならないが、これから推進していくにあたって、本審議会で何を議論するのかをもう少し詰めていってほしい。</p>
大野委員	<p>13ページにある意見反映モデルを円滑に進めるためには、身近で</p>

<p>岡委員</p>	<p>安心できる空間が大切だと考える。今後、市の具体的な施策となったときに、青少年活動センターや小・中・高等学校と連携し、意見反映モデルのステップを一つずつ進めていって子どもの奥底にある気持ちを拾い上げられたら良い。</p> <p>支援を要する子どもとは貧困や虐待、非行、障害など広く多様であり、それらをひとくくりにして支援するのでは前に進めない。どういう形で支援をしていけばよいのか、市への提案など考えていきたい。</p>
<p>志澤委員</p>	<p>専門領域である保健分野の視点から発言したい。事前質問で住民目線の目標がわかりづらいと書かせてもらったが、ポピュレーションアプローチをしていくときに広く色々な情報を発信しても、それを受け手がしっかり掴んで、自ら動きだしていただかないと結局繋がらないことが懸念材料として挙げられる。我々の分野では受援力というが、情報を掴み取る受け手の力が育っていかないと切れ目ができてしまう不安があるため、住民に対してどうなってもらいたいのか、どういう力を付けてもらいたいのかという観点の情報発信があって良いのではないかと考えた。動画に「～していきましょう」といったメッセージを入れてはどうか。今回、多くの子どもの反応を示していただいたので、素直に聞き取ってくれている子どもに対し、どうなっていくのがいいのか、といった情報発信の仕方も考えられたら良い。</p>
<p>杉本委員</p>	<p>4月から始まる第2子保育料無償化は英断だと思っている。第一子の年齢や所得の制限を設けないダイナミックな無償化だ。新聞報道もあったが、保護者があまり分かっていなかったようで、最近、本当ですか？と問い合わせがあり、本当だとお伝えすると「助かりますわー！」と感動した言葉が返ってきた。保護者に代わり感謝申し上げたい。</p>
<p>竹久委員</p>	<p>パブリックコメントで青少年活動センターの話が上がっており、指定管理者としてどのように対応していくのがよいかを考えさせられた。例えば全区に青少年活動センターを整備してほしいという意見では、期待する内容によってアウトリーチで答えられる部分も一定あるとは思うが、ある程度の広さの活動場所という点では圧倒的に対応できておらず、意見をどのように受け取るかで判断が変わってくる。我々としては、不十分である前提で、少なくとも、現状を少しでもよりよくするためにアウトリーチに取り組んでいる。</p> <p>また、はぐくみプランのやさしい版は分かりやすく、良い取組だと</p>

<p>長岡委員</p>	<p>感じている。情報量が増えるほど、何を伝えたいかがわかりづらくなってしまい、興味が失われてしまう。ある程度情報が絞られているものから入り、興味があればより詳細なものを見る、という流れが作れるとよい。</p> <p>また、相談窓口の一覧を入れることも良いことだと思うが、表現が市民に向けたものになってしまっている。「困難を抱えている子ども・若者の相談に応じています」という表現を見たとき、相談者本人として相談したいと思えるかという目線に立って、表現を考えていただきたい。</p> <p>真のワーク・ライフ・バランスにおいて「促進」とあるが、企業・労働者・地域と京都市との連携において、給与や休暇の取得率などの数字だけではなく、中身が大事だと考える。どのような連携をとっていくのかが気になる。</p> <p>また、多様なニーズなど、「多様な」という表現が多用されている。年齢や性、障害といった多様性を想定して使用しているとは思いますが、そういったものに区分されない、例えば心の健康観察システムなどでは見えてこないような、真の多様な意見や悩みが伝えられる場所があればよいと思う。</p>
<p>中野委員</p>	<p>例えば、エコ活動などの環境学習では、ごみ処理場の職員が子どものもとへ出向き、教えてくれる場面がある。</p> <p>今回のプラン策定においては、子ども・若者の意見聴取をはじめとした取組により、市役所との距離が縮まったように感じている。今後ホームページなどでプランの内容を発信するとの話もあったが、せっかくの機会でもあるので、市役所職員も子どものもとへ出向き、説明をしてはどうか。</p> <p>子どもが生活する場や反応を見ていただいて、説明をすれば、より距離も縮まるのではないか。子どもたちに、子どもたちのことを考え関わっている大人がいる、ということを知ってもらい、敷居を下げるという意味でも、取り組んでみてほしい。</p>
<p>中村委員</p>	<p>やさしい版を作成するのは、分かりやすく良い取組だと思う。一方で、やさしい版をインターネットやSNSを活用し周知する予定であるとの話であったが、諸外国では紙媒体の教科書などの良さが見直されている状況にある。</p> <p>タブレットで見る方法では、「見よう」と自ら行動を起こさなければ見られないものになってしまうので、家庭内で自然と目に入る状況</p>

<p>西島委員</p>	<p>を作りだしやすい、紙媒体での提供も検討いただきたい。</p> <p>若者の支援施策についてである。</p> <p>やさしい版に相談窓口の一覧を作成するのは良いと思うが、やさしい版にはふりがなが振られていることから、高校生以上はやさしい版ではなくプラン本冊を手にとると思う。プラン本冊においても、相談窓口の一覧を載せておく必要があるのではないか。本冊の15ページにはコラムで相談に係る記載はあるが、詳細について触れているわけではないので、伝わりづらいと思う。</p> <p>また、京都市子ども・若者総合相談窓口は、教師をはじめとする大人とのつながりが途切れる大学生年代にこそ周知が必要なものであると考える。大学生が目に触れるものに、事業を掲載していくことが重要だと思う。</p> <p>31ページ「イ 相談体制の充実と保健・医療の提供」に係る取組として、ユースクリニックという取り組みが伏見青少年活動センターで行われていた。これは、カウンセラー・看護師が訪問し、オープンなロビーで相談に応じるという素晴らしい取組であるが、今年度で終了すると聞いており、残念である。振り返りの中で、相談件数だけではなく、その他の要因として、安心材料として大きいものであった等、どういう効果をもたらしていたか検証し、展開を考えてほしい。</p> <p>また、30ページに記載の学習支援事業では、携わる側としては、家庭をはじめとして連携が取れていないと感じている。「家庭・地域・学校・関係団体・行政がしっかりと連携しながら」との記載もあるので、今後はその連携の強化に期待したい。</p> <p>最後に感想として、審議会の全体会について、年度当初はもっと活発な議論が行われていると期待を抱いていたが、思っていたほどではなかった。大学生年代も参加するこういった審議会は、子ども・若者の意見反映の場として最たるものであると思っている。今後は、子ども・若者の意見反映における土台である、より身近で安心できる空間として、審議会や部会がその役割を果たし、よりよいものとなっていくことを期待する。</p>
<p>藤本委員</p>	<p>プランが発行してからは、具体的にどのような形で実行していくのが重要だと考える。西島委員の話にもあったが、「連携する」との言葉をとっても、実態との乖離やその理由、行政区ごとで異なる実施状況などがあり、記載内容を実行していくにあたって困難となる部分があると思う。</p> <p>プランに記載している内容をそれぞれの現場に浸透させ、それぞれ</p>

<p>山下(維)委員</p>	<p>の組織や場面の中で連携していけるような仕組みづくりを検討していけたらよいと思う。また、市役所内でも、どう横ぐしを刺し、どこと連携を深めていくのかを考えていければよい。</p> <p>もう少し議論を尽くすことができれば、という思いがある。</p> <p>こうしたプランを審議会として議論する中で、委員の意見を聞いて考えることもあれば、こちらから発信したいことも出てくる。考えていることを投げかけあえるような場にしていきたい。</p>
<p>山下(和)委員</p>	<p>子どもたちから、パブリックコメントで多くの意見が寄せられたとのことであり、適切にフィードバックいただくとともに、引き続き子どもたちへの動機付けに取り組んでいただきたい。</p> <p>また、志澤委員から受援力について発言があったが、本当に必要なところに必要な情報が届いているのか、というところについて精査をいただきたい。例えば、やさしい版に設ける相談窓口一覧では、子どもの立場に立つと、どのように相談窓口を選び、相談すればよいか難しいのではないか。また、電話やメールでの相談が難しい子どももいる。</p> <p>開設されている相談窓口と、その活用状況については、今後の5年間でも継続して注視いただきたい。併せて、本当に活用できる窓口となるよう、そうした中で改善を図っていただければと思う。</p>
<p>川北副会長</p>	<p>パブリックコメントで子ども・若者から意見が多く寄せられており、この意見に対しては丁寧に対応していく必要があると思う。大人になると、諦念交じりで意見を出すこともあるとは思いますが、子どもはそうではない。意見がどのように反映されていて、どういった理由で反映されないのかなど、子どもが分かるように、丁寧に説明する必要がある。今後、子ども・若者が主体的に意見を持っていくことにつながるため、失望させないような対応をお願いしたい。</p> <p>また、遊び場についての意見では、遊具の改修をはじめとした意見が寄せられているとのことだが、子どもはそう言ったことだけを求めているわけではないと思う。時間や友達などが理由で遊ばなくなっている子どもが、それでも魅力的な遊び場を望んでいることに鑑みて、地域で「どのような公園があればよいのか」を考えるなど、子どものことを地域で考えていく一つの契機となればよいと思う。また、こうした考えが広まり、他へ波及していったほしい。</p> <p>プランを策定して終わりではなく、策定したプランが今後継続して考えていく土台となることを期待する。</p>

安保会長 司会	それでは、本日の審議はこれで終了し、事務局へ進行をお返しする。  以上もって、第3回「京都市はぐくみ推進審議会」を終了する。  <p style="text-align: right;">（15時30分 終了）</p>
------------	---